

## おわりに

結びになります。本年4月には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、人類共通の課題であるSDGsの達成に向けた国家プロジェクトである「大阪・関西万博」が、いよいよ開幕を迎えます。

本市においても、世界の人々に広く発信できる機会と捉え、1970年の大阪万博以来、55年ぶりとなる新居浜太鼓台の派遣を通じ、本市の魅力の発信に努めてまいりたいと考えております。

また、住友グループが出展する「住友館」では、本市に保有する「住友の森」の樹木の活用や、別子の山々のシルエットに着想を得たパビリオンの整備が進められたと伺っております。出展にあたり、住友EXPO2025推進委員会では、「今回の出展を通じ、住友グループの総合力で社会課題に挑み、より多くの方々のご参加のもと、豊かな未来を創り出していきたい。」とされており、公益との調和や次世代への責任を使命とされてきた事業精神が感じ取れる、素晴らしい展示になるものと期待いたしております。

こうした別子銅山の時代から脈々と受け継がれる住友グループの事業精神と困難を乗り越えた先人の偉業に触れることで、今後の市政運営やまちづくりに対する多くの示唆を得ることができると、私は強く感じております。

「別子銅山の中興の祖」と言われ、煙害問題の解決にあたるなど、CSRの先駆者とも称される伊庭貞剛は、別子支配人として赴任後、別子銅山の人心の荒廃を見抜き、経営トップである自らが愚直に現場へ出向き、対話を重ねることで、社内はもとより、煙害に苦しむ地域住民との意思疎通を図り、人心を一新いたしました。

不透明な時代において、本市を取り巻く現状も内憂外患と言える中、「市民の夢に、私達の夢を重ね、市民の幸せが私達の幸せ」となれる様に、行政、議会が一体となってまちづくりを進めるためには、これまで以上に、街を構成する各団体が、分野や業種の枠を超えた連携を積み重ねていくことが、極めて重要となります。

違いを排除し、対立を深めるのではなく、対話を育み、新たな行動規範を整え、意見や立場の違いを乗り越えていかなければなりません。

大きな時代の変換点の中で、一人ひとりが当事者として、新居浜の輝く未来のために貢献していこうとすること。そうした意識の広がりを、就任以来掲げております「対話とコミュニケーションに基づく市政運営」を通して、推進してまいります。

私たちの目の前に広がる課題は、いずれも一朝一夕に解決できるものではありません。まずは、一步を踏み出し、その一步を具体的で力強い未来への確かな歩みとするため、全力で取り組んでまいり所存でございますので、議員の皆様、市民の皆様におかれましては、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。